

※ATF / CVTF注入専用です。抜き取りはできません。
 ATF / CVTF交換時は車両診断機が必要です。
 車両のオイル注入方法は各メーカーの車両
 サービスマニュアルを参考にしてご使用ください。

ホースチャック部
 20PM タイプ専用



1. 使用する車両に合わせてアダプターを選択します。

例) 車両のオイルパンのドレン部分から注入する場合はドレン部分に接続します。(図1)

ホースチャックアダプターの先端にアダプターをしっかりと奥まで差し込みます。

差し込み方向に注意してください。ネジ形状、L型形状は車両接続側になります。

※取外しは青色の淵を押込みながらアダプターを引抜きます。(図2)

全自ATFチェンジャーのホースに接続してATF/CVTを注入します。

※車両のオイル注入口は車両のサービスマニュアルを参考にしてご使用ください。

図1



図2

アダプターの取付

しっかり奥まで押し込みます。



アダプターの取外し

チャックの青色の淵を押しながら引抜きます。



アダプター

品番	アダプター	適用車種
AT-117		トヨタ・日産 マツダ (ATF)
AT-105		日産 (CVT)
AT-113		日産・INFINITI(ATF)
AT-125		日産

品番	アダプター	適用車種
AT-118		スズキ・マツダ (CVT)
AT-110		トヨタ・ダイハツ LEXUS (CVT)
AT-102		汎用

規定量注入後フルード量の確認

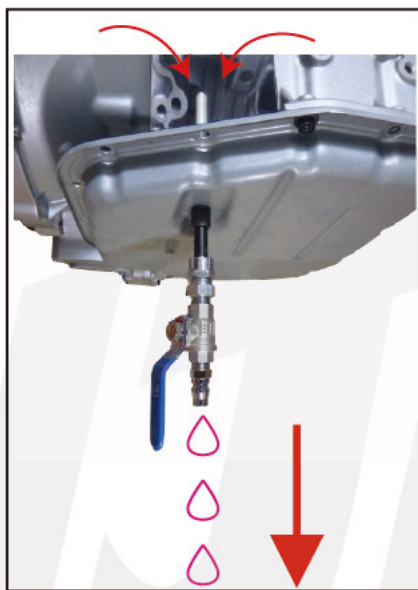
2. フルードがオーバーフローする場合がありますのでオイル受けを用意して受け止めてください。ホースを接続した状態でコックを横にします。(図3) 次にホースチャックを取外します。

コックをゆっくりと縦に戻してフルードが流出する場合は水滴程度の流れになるまで放置する。(図4)

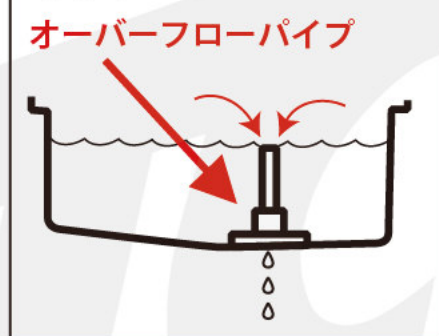
フルードが流出ない場合、注入量が少ないので再度補充してください。オーバーフロー終了後ドレンパンからアダプターを取り外します。

暖機して再度フルード量の点検をする為ドレンボルトを仮締めします。

(図3)



(図4)



排出時

油温及びフルード量調整

1. 暖機して適正油温に調整します。

(油温調整方法は各車輻により異なります。診断機が必要な場合もございます。)

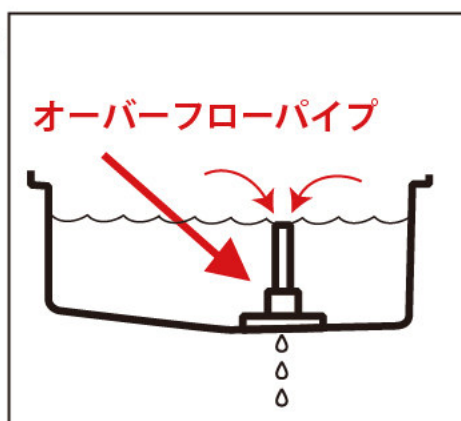
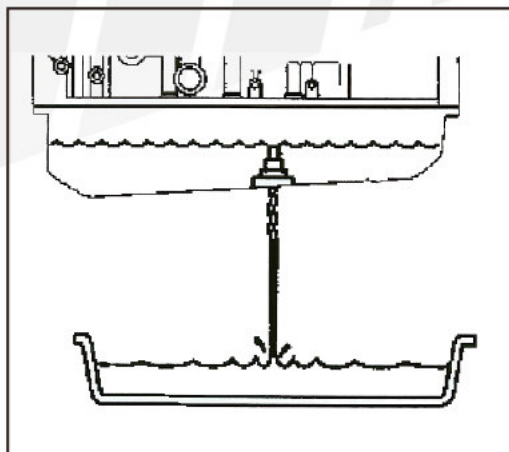
適正温度になった時にドレンボルトを緩めてフルード量を点検します。

フルードが流出する場合は水滴程度の流れになるまで放置する。(図5)

ドレンボルトを本締めします。

フルードが流出しない場合、注入量が少ないので再度注入器で補充してください。

(図5)



輸入発売元 **JTC Auto Tools** 株式会社

E'M : info@jtcautoools.co.jp

FAX : 0834-36-0010